



岐阜市立岩野田北小学校 学校だより

# せんだんの木



令和6年12月20日 校長 各務 至

## パパレンジャー参上！



12月1日(日)、パパレンジャーの皆さんが「せんだんの木」の周りを囲っているブロックをきれいに並べ直してくださいました。

1つが50kgもありそうなブロックを、せんだんの木の根っこがグイグイ押して、崩してしまっていたのです。自然の力のすごさに驚かされたのですが、そのままでは子供たちが安全に遊ぶことができないので、何とかしたいと悩んでいました。そこへ、「校長先生、

私たちが何とかするよ。子供たちのためなら。」とあって、パパレンジャーの皆さんが駆けつけてくれました。中には、ふだん仕事で使っているショベルカーを持ってきてくださる方もありました。たいへんな力仕事でしたが、皆さんで知恵を出し合い、何とか半日で完成させることができました。「子供たちのために」と言いながら汗を流す姿は、かっこよく見えました。ありがとうございました。

パパレンジャーとは、岩野田北小学校に在籍している児童の保護者さんと、児童が卒業したけれども、そのままOBとして残ってみえる方々の集まりです。

## 災害に備える

○命を守る訓練（避難場所集合時の話より）

「いつもと違うことが二つありました。何でしょう。一つは、授業中ではなく、近くに先生がいなかったことです。もう一つは、「余震」と言って、繰り返し地震があったことです。「できるだけ実際に近い形でやろう」と先生たちで話し合って、このように訓練をすることを決めました。さて、今日の大切なポイントは、次のどれでしょうか。

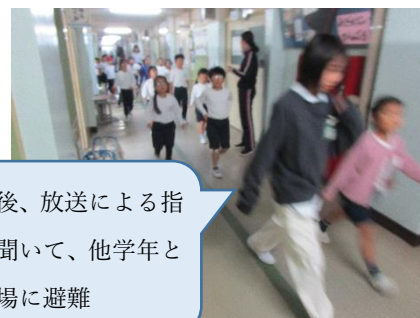
「自助」自分の身は自分で守る  
「共助」被害にあった人同士で助け合う  
「公助」専門の方々の助けをえる

掃除中に警報が鳴り、その場でダンゴムシのポーズ



そうです。自分の身は自分で守る「自助」です。では、なぜ「自助」が大切なのでしょうか。そうですね。まず、自分に余裕がないと、周りの人を助けることができないからです。・・・」

子供たちは、近くにいる子どうしで声をかけるなど、とてもいい動きをしましたし、この訓練の意図もよく理解しました。このように、子供たちが、受身的な行動から自発的な行動へ変わっていくことを願っています。



余震後、放送による指示を聞いて、他学年と運動場に避難

#### ○防災倉庫の見学と体験活動



自分たちでもできたよ。

備える大切さがわかった。

こんなにいろんなものが入っていると知らなかった。



11月のことですが、4年生が、自治会の方の案内で、体育館の横にある防災倉庫の中を見せていただき、一輪車やテントなどを組み立てる体験をしました。子供たちは、災害に備えておくことの大切さや、災害は学校にいないときにも起こること、地域の方々と協力すること等を学びました。

この学習は、社会科4年「風水害からくらしを守る p74-89」において、自治体や地域の取組、自助の取組について、地形や歴史と結びつけながら学ぶものであり、教科書の学習から飛び出していく重要な場面でもあります。防災について、ご家庭や地域でも話題にさせていただけますと幸いです。